令和3年度

タウト塾@熱海

オンライン講座

第2回

東山文化・Ⅰ

2021
5月
No.02

熱海ブルーノ・タウト連盟

熱海の発展

江戸の湯治場、明治より人気の保養地熱海は、大正天皇の御用邸（明治21年竣工）に伴い、政財界、文人墨客があつまった。

第一次世界大戦、15年戦争、第二次世界大戦、関東大震災、熱海大火のなか、熱海は大きな飛躍を遂げ発展してきた。

「東山」は、熱海駅開業、丹那トンネルの開通によるところから、現代熱海づくりの先駆けの役割を果たす。

熱海の発展は交通の発展に伴っている。

熱海温泉誌

2017（平成29年） 4月10日　市制80周年　　1889（明治22年）～

熱海市となったこの年は、旧日向別邸地下室が完成した翌年でした

講座構成　　東山誕生・二つの背景

- 熱海の近代・現代史
- 熱海市誕生　泉都熱海市位を名乗る
- 温泉地区と駅前地区
- 温泉地区の発展

- 駅周辺地区の発展　熱海交通発展史
- 熱海駅の開業　大正14年
- 丹那トンネルの決定・工事
- 丹那トンネルの開通　殉職碑
- 丹那トンネルの二つの恩恵

- 東山・桃山の土地分譲（温泉付き）開発
- 東山・桃山の土地分譲（温泉付き）案内
- 東山分譲地と熱海地区分譲地
- 現在の熱海・東山全景
- 東山全景・東山トリオ
- 東山トリオ　時を繋ぎ、時を超えて佇む

東山誕生の背景　I

温泉地区－熱海－駅前地区

↓

東山誕生の背景　II

熱海駅開業－交通－丹那トンネル

↓

東山・桃山の誕生と今

東山トリオ

東山荘－旧日向別邸－海峯楼

熱海の近代・現代史　村から市へ

- 1889年（明治22年）　熱海村、伊豆山村、泉村、初島が合併して
  賀茂郡熱海村　発足
- 1891年（明治24年）熱海村が町制施行して**熱海町**となる
- 1937年（昭和12年）4月10日 - 熱海町と多賀村が合併し**熱海市**が発足
- 1957年（昭和32年）　4月1日 - 網代町を編入合併　**現・熱海市。**

熱海村　伊豆山村
泉村　初島　1889（M22）

熱海村・熱海町

↓

多賀村　1937（S12）

熱海市

↓

網代町　1957（S32）

現在の熱海市

熱海市誕生

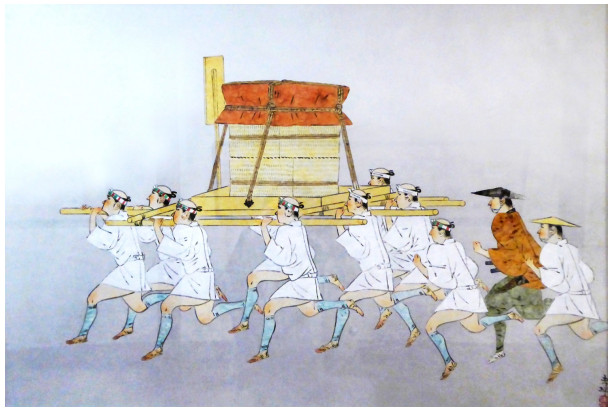
熱海駅開業時に始まる駅周辺区の発展

温泉地区　銀座通り周辺の温泉地区
駅周辺区　熱海駅を中心とした地区

温泉地区の発展

江戸時代

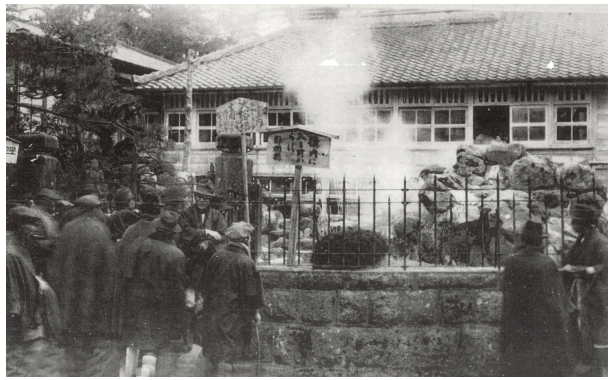
（湯治場）（家康）

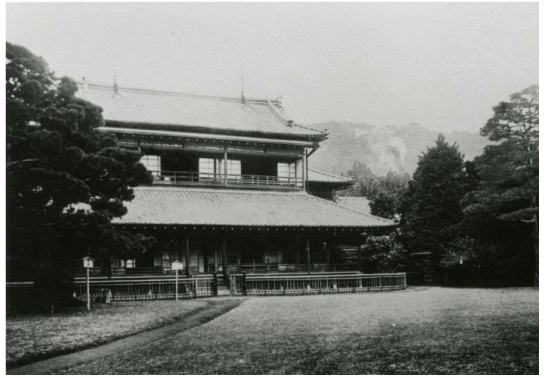


明治・大正

（保養地）（政財界）

喰滝館と熱海梅園/熱海御用邸





昭和観光地

（新婚・社員旅行）

熱海の交通発展史

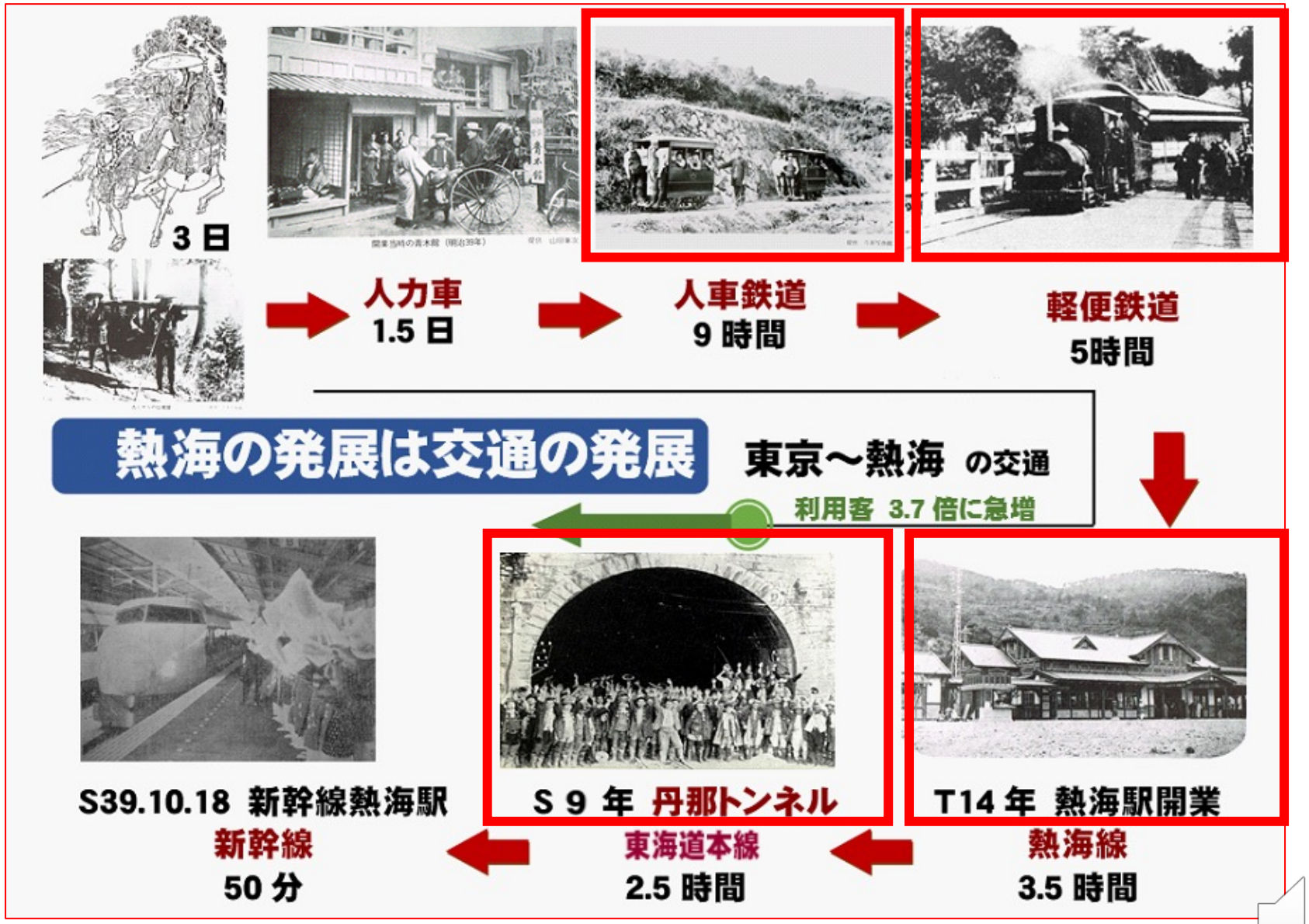
熱海は江戸時代より、全国の温泉地でも別格「行事」として人気の温泉地でした。

また明治には、政治家を文学者など多くの著名人の人気の場所となり発展を遂げてきたのですが、「交通の不便さ」が常に付きまとってきました。

熱海の発展の歴史は、交通との闘いといっても過言ではありません。その為、人車鉄道、軽便鉄道など多くの手段をとってきました。

そうした中でも、大正から昭和初期にかけての「熱海駅開業」と丹那トンネルの開通は特別でした。

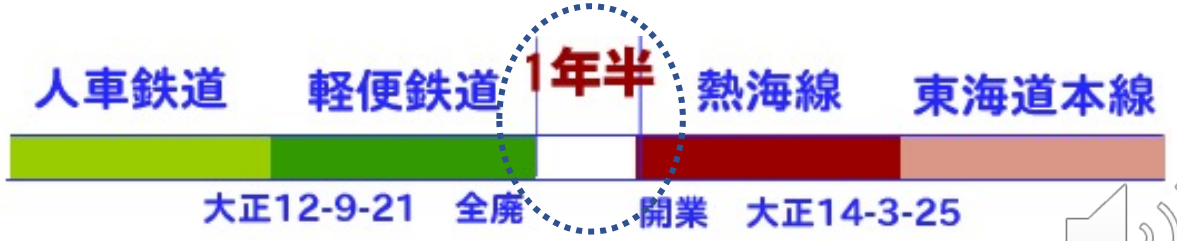
この講座では、熱海の交通を軸に街の発展、東山文化を見て参ります。



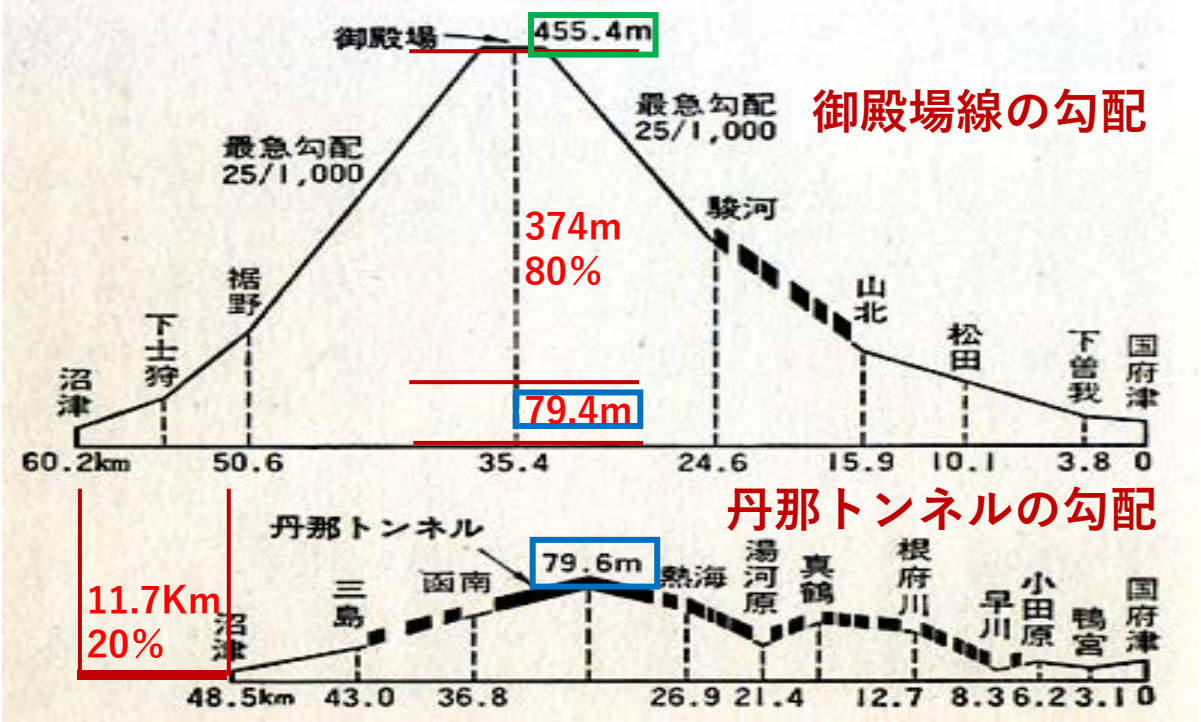
熱海駅開業　1925年（大正14年）3月

- 東海道本線は、国府津から御殿場線で沼津につながっていた
- 小田原・熱海では、豆相人車鉄道→軽便鉄道により終点熱海つながっていた。
- 大正12年9月の関東大震災により壊滅、全廃。
- 大正14年3月　国府津から熱海をつなぐ熱海線開通

熱海駅開業は、軽便鉄道の全廃からまでの1年半後に完成。開業は多くの人々に喜ばれた。



丹那トンネル決定・工事

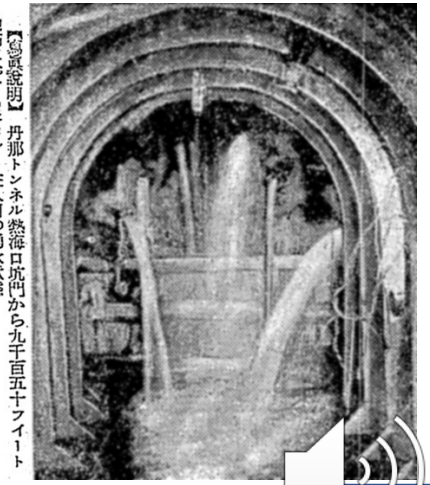


- 御殿場線を東海道本線としていたが、勾配がきつく輸送に大きな障害をもっていた。
- 熱海線は勾配は80%減となり距離も20%強減となった
- そうしたことから、熱海から函南間を開通して通す案が採用された
- 大正7年着工し昭和9年完工した
- 初工期は7年であったが、多量の湧水から16年となった
- 大事故は4回、日本の鉄道トンネル工事史上、最大の難工事であった。

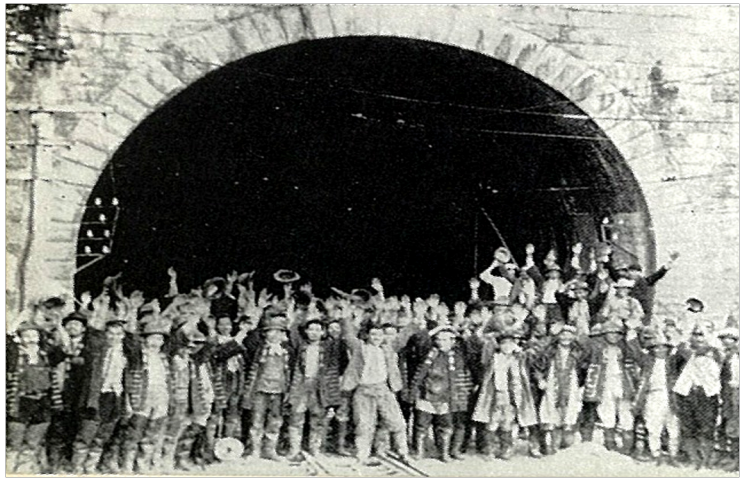
難工事

工期：7年　→　16年
予算：700→2500万円
　　－当時予算－
犠牲者：67名
　　－水、落盤犠牲者－
延べ人数：250万人
長さ：7804m

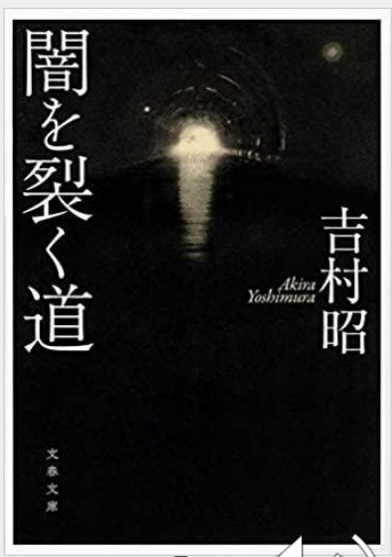
南側水抜坑付近の湧出水　西方大谷口より七千二百三十フィートの地點


【參考説明】丹那トンネル熱海口坑門から九千百五十フィート地點におけるセメント注入前の湧水狀態

丹那トンネル開通 殉職碑　昭和9年12月



丹那トンネル殉職碑



吉村昭著『闇を裂く道』

丹那トンネルの2つの恩恵

難工事をまねいた大量の丹那湧水

第一恩恵
多くの
観光客

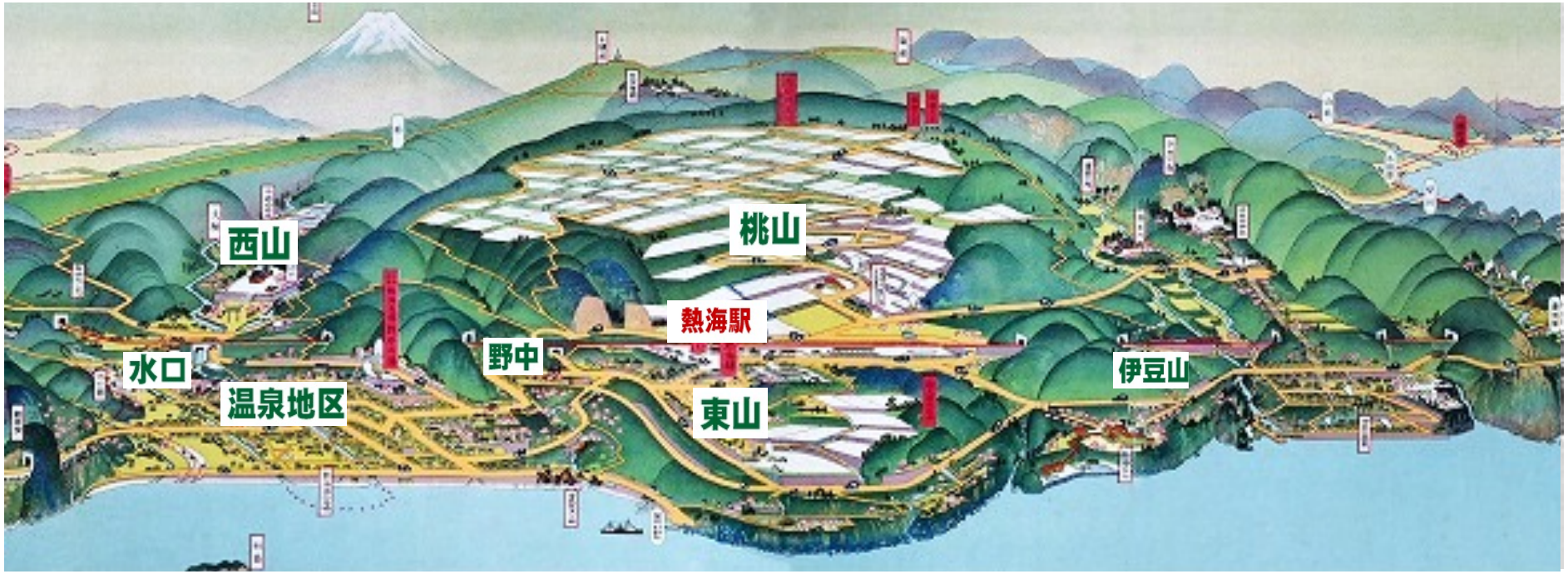
急激な水不足

第二恩恵
大量な
生活水

線名	乗客数	降客数	和暦
軽便鉄道 小田原～熱海	1.7万人	1.9万人	大正12年調べ
熱海線 東京～熱海	28.7万人	37.1万人	大正14年調べ
東海道本線 丹那トンネル開通	191万人	162万人	昭和10年調べ

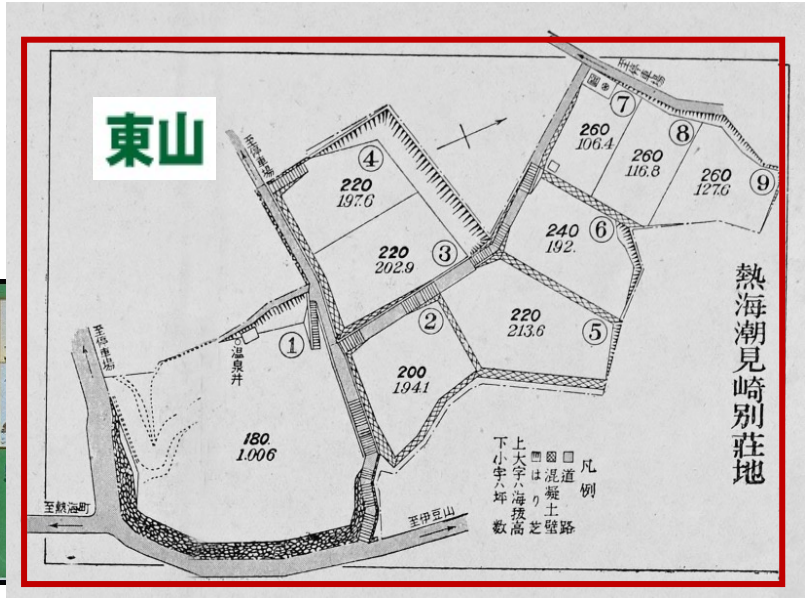
東山・桃山の土地分譲（温泉付き）開発

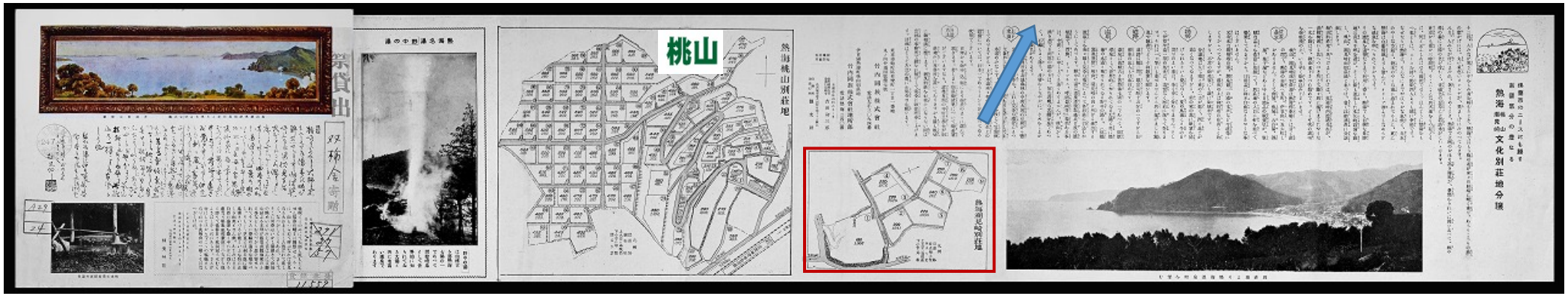
- 東山の地は以上のような交通の大きな転換期を背景に生まれてきました。
- 大正10年　東京に本拠をおく竹内同族会社が桃山・東山（潮見崎）の土地分譲を開始
  これは開通7年後を予定していた丹那トンネル工事着工の3年後
- 開発と同時並行して、来宮神社の位置する西山、温泉地区の間の野中地区（現咲見町）、
  水口付近、伊豆山地区なども開発が盛んになる



熱海 桃山潮見崎 文化別荘地分譲 案内

竹内同族会社による（大正14年）
「熱海潮見崎・桃山文化別荘地分譲」パンフレット。
　両面刷りで、坪内逍遥・双柿舎からの図書館への寄贈品。奇麗なかたちで残っている。
　NHK　「ブラタモリ」にも説明用で登場





東山（潮見崎）分譲地と熱海地区の分譲地

凡例

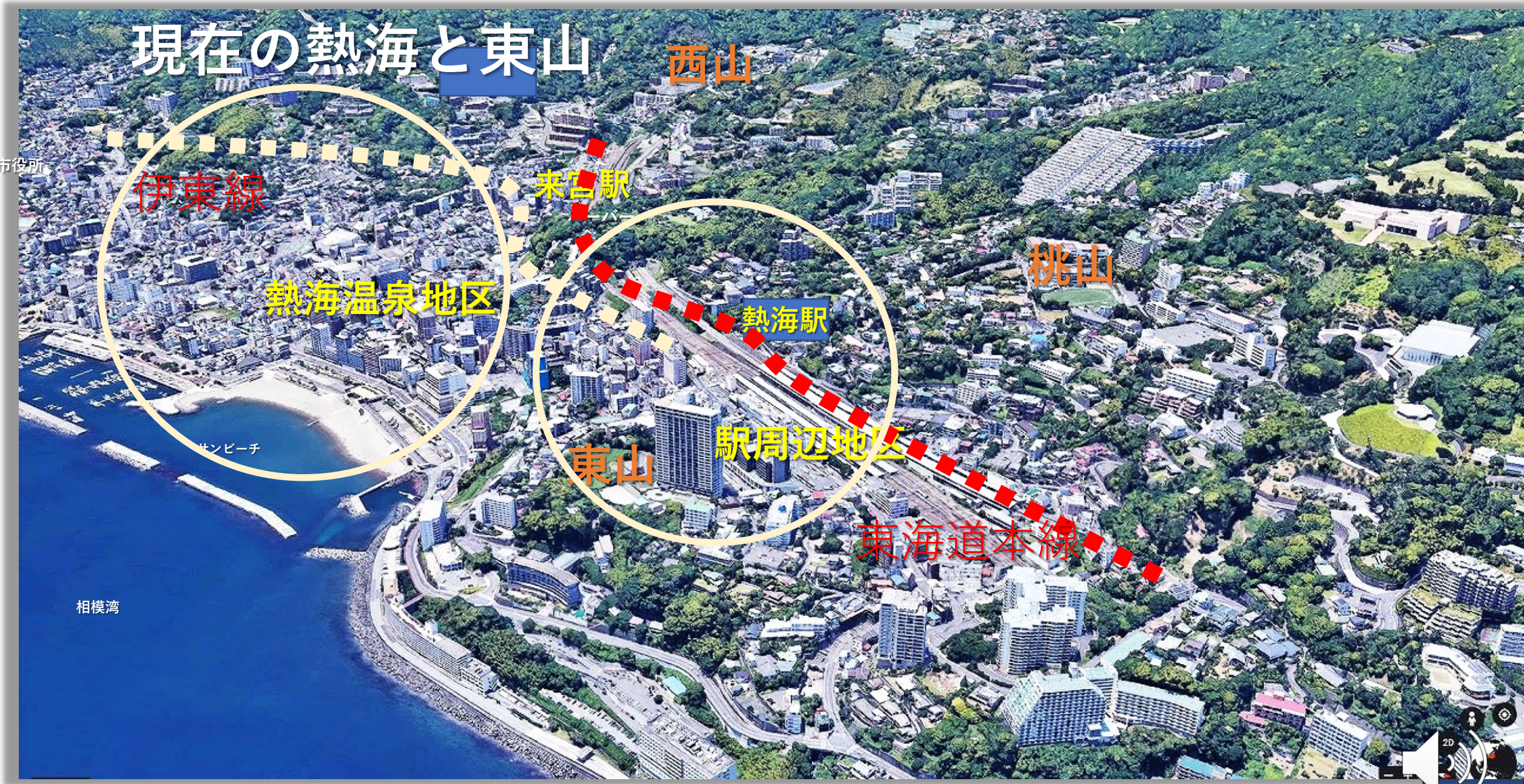
：開発禁止区域
：近世温泉町域
：大正末期の市街地域

図3 昭和初期の分譲地分布 （筆者作成）

：分譲地
：分譲地（おおよその位置を示す）
：独自温泉源の所有が確定する分譲地

出展・熱海温泉誌

現在の熱海と東山



東山全景　東山トリオ（旧日向別邸・東山荘・海峯楼）

現在の東山全景

- 標高約90m
- 駅約20m高い場所。
- 135号線、駅前道路に囲まれた丘

- 頂きに3つの施設が隣接し合い「東山トリオ」を構成

- 他昭和の建物が複数存在し、昭和の浪漫をかもしています

- 高層マンションはかつての学校跡地につくられたもの

東山トリオ　時を繋ぎ、時を超えて佇む

東山の小さな丘の上には、三つの個性的な施設が肩を並べて建っています。またその周辺にも熱海の昭和レトロが・・・。
次回は東山が生み育んできた個性来な建物を中心に紐解きます

ATAMI海峯楼
1997・H7
設計：隈研吾

建築家つながり

旧日向家熱海別邸
1936・S9
設計：ブルーノ・タウト
国重要文化財

時代つながり

東 山 荘
1933・S8
岡田茂吉
国登録有形文化財

ここ熱海の東山（春日町）は、「産み・保持・進化」させるチカラをもった不思議な地域　！　熱海ブルーノ・タウト連盟

令和3年度

オンライン講座
第2回
東山文化・Ⅰ

2021
5月
No.02

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海

No.02　END